

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1790100323		
法人名	㈱遊子苑		
事業所名	グループホーム遊子苑ながた		
所在地	石川県金沢市長田本町ホ14番地1		
自己評価作成日	平成29年10月17日	評価結果市町村受理日	平成30年3月26日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 寺井潔ソーシャルワーカー事務所		
所在地	石川県金沢市有松2丁目4番32号		
訪問調査日	平成29年12月20日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者のみなさまに「楽しく・仲良く・安心して」暮らしていただくための家となるよう、入居者の皆さんおひとりおひとりが主体であることを重視し、いつまでも「その人らしい生活」が送れるよう支援しています。地域の方々との協力体制も築かれており日頃より運営に関してのご理解とご協力を賜っています。本年度は前回好評だった新幹線を利用しての外出や、毎月の食事に家族の方も参加されるなどご家族とも良好な関係が築かれています。ご利用される皆様の要望はもちろん、社会との繋がりを持った生活が重要であると考え、利用される皆様の希望するライフスタイルの実現に向け、関係する全ての人が協力し合い、環境を整えられるよう努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--	--	--	--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~59で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
60	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	67	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
61	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,42)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	68	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
62	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:42)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
63	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:40,41)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
64	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:53)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	71	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
65	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	72	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
66	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホームの理念である、楽しく・仲良く・安心して暮らして頂く事ができるよう、管理者や介護主任が中心となって本人の意思を尊重しながら実践に取り組んでいる。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	町内の夏祭りや文化祭、公園の清掃に参加するなど地域の行事に参加している。また長田坤龍獅子に職員が参加するなど積極的に地域との交流に努めている。他事業所と合同で地域の公民館にて合唱サークルに希望者が参加し定期的に発表会を開催している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方々に、ホーム便りや運営推進会議、地域のイベントに参加する機会を通して認知症ケアに関する理解を深めて頂けるよう努めている。また今後は介護保険制度の説明や認知症ケアの実践についてなど、様々な面で働きかけが必要と考えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を2ヶ月に一度開催。その都度ホームの取り組みや近況を報告。ご家族や委員の方々との意見交換を通し、利用者のより充実した支援を提供できるように活かしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	毎回運営推進会議には市の担当者に参加して頂き、事業所のサービスや取り組みについて積極的に伝え理解を深めて頂くと同時に、質の向上に向け意見を頂いている。また制度についての確認が必要な場合は、都度市町村担当者に確認し協力関係の構築に努めている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	事業所で身体拘束防止マニュアルを作成。研修に参加した職員は学んだことを、ミーティングの場で発表し正しく理解できているかの機会を設けている。また玄関や出入り口の施錠は行わず、入居者の行動の拘束を行わないよう努めている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止マニュアルが作成されており、研修に参加し学んだことを全体ミーティングや、日々の話し合いの中で取り上げ高齢者虐待に対し正しく理解できるような機会を設けている。職員の日頃のストレスチェックを管理者がコミュニケーションを通し注視している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在対象者となる方がいる。ご本人には制度の説明や活動に向けた支援を行っている。また月一回支援活動報告を成年後見人と面談している。 成年後見人制度のセミナーに参加し制度に関する理解を深めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前には事前に本人、家族が理解し納得していただけるよう十分な話し合いをし家族の不安や疑問の解消に努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年に一度の家族会でバーベキュー大会を行い多くの家族に参加していただいている。同時に運営推進会議も開催し家族の意見を地域の方や外部にも表し運営に反映している。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者はシフト勤務に入り普段から積極的にコミュニケーションを図っており、職員の意見、提案を聞き実践に繋げている。また代表者もミーティングに参加し現場の意見を運営に繋げている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は管理者と会議以外にも常日頃密に連絡をとっている。また現場の利用者と話しをしながら現場の状況や職員の勤務状況の把握に努めている。職員のスキルアップや意欲向上の為研修費の免除や資格取得者には手当支給に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の経験に合わせ研修参加の確保に努めている。またサービスの質の向上に向けフロアや個々で目標を定め実践に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	実践研修の受け入れや他グループホーム共同で行う合唱サークルやその他の研修の参加によりネットワークづくりに努めサービスの質の向上に繋がる取組を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	最初に本人とゆっくり関わり不安な思いがないか表情や会話から情報を知り職員間で情報を共有し安心して過ごしていただけるよう支援方法を検討し実践に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初期のケアプランを作成するにあたり本人や家族からの要望や思いを聞き取りプランに反映させている。日頃の様子なども面会時や電話、メッセージカード等で積極的に伝えている。家族からは面会時にどんな小さな事でも遠慮なく言ってもらえるような関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族が必要としている支援の意向の確認をしっかりとるように努めている。現在の生活状態で出来る事や継続の必要性、また課題を抽出し本人、家族が合意の上、支援を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活において家事参加は決して無理強いする事のないよう、普段から本人にお聞きし選択している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時など家族とのコミュニケーションを図り家族にも希望があれば食事会やレクレーションなど気軽に参加して頂きその時の本人の思いを家族、職員共に共有している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の面会もいつでも来られ、本人の大切にしていた友人や近隣の人も定期的に訪れている。また気軽に来苑できるような雰囲気づくりに努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	仲の良い利用者同士がお互いに居室を行き来し話しをしたり編物をしている。また共有フロアの座席の位置も職員がコミュニケーションの橋渡しを行う事で自然と皆がそこにいる事が多い。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も、必要に応じて家族からの相談を受け利用できる福祉サービスの情報提供や受け入れ先を探す等の支援を行う体制が出来ており退去時にはその事を家族にお知らせしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活場面での会話や関わりの中で本人から発せられているサインを見逃さないよう注意し本人の思いや意思の把握に努めている。それでも困難な場合にはご家族から話しを伺ったり、職員間でミーティングを行い意見を出し合う等して本人の思いを理解するように努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族からの情報提供や本人の日頃の会話や行動を観察したり、モニタリングやアセスメント結果を職員間で共有し本人らしさの理解に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員が利用者と共に1日を過ごす中で個々の身体状況や日々の過ごし方を確認し残存能力の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3ヶ月に1度担当職員が中心となりモニタリングを実施している。また、本人やその他の職員が思いや意見を出し合える場を設けたり家族からの要望をお聞きし利用者のニーズに合ったプランの作成に努めている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録を基に職員間で話し合う時間を日常的に設け情報の共有に努めている。また実践やケアプランの見直しにも活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	希望に合わせた個別の外出支援を始め、既存のサービスに捉われない、その時々生まれるニーズに対応した柔軟な支援やサービスが提供できるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の夏の盆踊りでは足腰が強い方で元気な方が希望に沿って毎年浴衣を着て参加している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	2週間に1度の訪問診療に備えて日頃から変化があった時など職員間で話し合いをしている。主治医が訪問診療後に定期的に勉強会を開いて頂き職員は進んで参加している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師には日頃から状況報告や相談をし連絡を密にとっている体制である。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	お見舞いに行った際には病院での様子を担当者よりお聞きし職員に報告を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合は面会時や電話等で状況報告し家族に早い段階で今後の事について要望や意見を聞いている。また同時に苑で終末期の支援でできること、出来ない事をお伝えしている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	各フロアにマニュアルがあり、状況別に対応が出来るよう日頃よりシュミレーションを行い体で覚えられるように努めている。		
35	(13)	○緊急時等の対応 けが、転倒、窒息、意識不明、行方不明等の緊急事態に対応する体制が整備されている	緊急時に備えマニュアルを作成し、全職員が一読。定期的に救急車依頼の練習を行うなど、緊急時に備えている。また職員は救命講習に参加し対応の実践力を身につけるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	(14)	○バックアップ機関の充実 協力医療機関や介護老人福祉施設等のバックアップ機関との間で、支援体制が確保されている	月2回の訪問診療で現在の利用者の状態を報告し薬の効果についても報告している。協力医の指示の基、薬の調整を行い様子を見ている。		
37	(15)	○夜間及び深夜における勤務体制 夜間及び深夜における勤務体制が、緊急時に対応したものとなっている	併設のケアホームと合わせ各フロアに1名ずつ計3名が夜勤者として配置。利用者の緊急入院等職員が付き添うときは夜勤者2名で協力して行き同時に他の職員にも連絡をし駆けつける体制は整っている。		
38	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	運営推進会議時や他定期的に避難訓練を実施している。訓練結果や講評については訓練不参加者にも報告し、今後も地域との協力体制の構築や職員間での話し合いの場を設けるなど、災害対策に対する意識を高めていきたい。		
39	(17)	○災害対策 災害時の利用者の安全確保のための体制が整備されている	食材、飲料水の賞味期限の確認や量の確認を役割分担の係りが責任を持って行っている。備蓄場所の周知を図っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
40	(18)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者一人一人の人格を尊重しプライバシーに配慮している。耳が遠い方もいる事から大きな声で話しかける事もあるが合わせて筆談を用いたり対応の仕方について職員間で互いに指摘しあえる関係を築けるように努めている。		
41		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃より利用者の方が思いや希望を気軽に伝えて頂けるように雰囲気作りに努めている。職員は利用者が自己決定できる事の重要性を理解するよう努め、その機会を奪う事の無いよう注意している。		
42		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人一人の思いを大切に、可能な限りそれぞれの方のペースに合わせた生活が叶えられるよう支援している。散歩が好きな利用者には外出支援、買い物好きな利用者には行けるよう工夫している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	居室から出られる際は洗面台前でブラシで髪を整えている。着る洋服については季節にあった物を着て頂けるように支援している。定期的に出張理容を利用している。利用者の友人が理容師であり定期的に苑に来られ理髪している。		
44	(19)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や片づけのできる方は職員と一緒にやっている。ギョーザ作りの得意だった利用者には毎月決まった日にギョーザの下準備を職員と一緒にやっている。以前ほど上手く作る事は出来なくなってきているが継続して行えるよう支援をしている。		
45		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	本人の健康状態にあわせての食事形態を変えて提供している。食事制限のある方には主治医の意見と本人の状態を確認して対応をしている。食事摂取量のチェックをし体調維持管理に努めている。		
46		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に歯磨きの口腔ケアを本人の力量に合わせて行っている。義歯の方は都度洗浄を行い定期的に消毒を実施している。		
47	(20)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表を利用して、一人一人の排泄パターンの把握に努めている。本人の申し出には要望内容に則して介助を行っている。トイレの排泄を維持できるよう適宜の声掛けにてトイレでの排泄の支援を行っている。		
48		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	主治医とも相談しながら、適度な運動や水分補給、必要に応じて内服を行うなど、自然排泄と便秘予防に努めている。便秘予防にヨーグルトや牛乳、繊維の多い食材を朝食時に提供している。		
49	(21)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	声かけにて入浴を案内し入浴を楽しめるように対話に努めている。入浴剤を使用し浴槽でゆっくりくつろげるよう、また香りによるリラクゼーションに役立てている。入浴後の皮膚のお手入れや整髪を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご本人の表情や様子を伺いながら希望時には休息をとって頂いている。就寝のさいは一人ひとりに応じて安眠できるよう室温などにも配慮し環境を整えるよう努めている。		
51		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者それぞれ担当職員がおり薬のセットや服薬内容を把握している。処方については主治医とその都度確認できるよう連絡を密にしており服薬による症状の変化があった場合は直ぐに連絡がとれるような体制になっている。職員間の服薬の情報共有にも努めている。		
52		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活歴を参考にその方が役割、楽しみを持って生活ができるような声掛け、行事への参加を促す等の支援に努めている。		
53	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節を感じていただけるような場所へのドライブや利用者に希望を聞き皆で外食する機会を設ける等外出支援に努めている。又合唱サークルに通われている方もおり一人ひとり希望に沿えるよう、職員が同行する等の支援を行っている。日常的に家族の方と一緒に外出されている方もいる。		
54		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	職員は本人がお金を持つ大切さを理解しておりご本人の希望、ご家族の了解がある場合お金を所持されている。所持することで安心感を得られる方もいるが外出時に希望に応じて使えるようにも支援している。		
55		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	相手方にも理解を得た上でご本人自ら電話されている。又携帯電話を所持されている方もおりいつでも連絡がとれるよう支援している。又御家族、親せき等より手紙やはがきが届いた際には本人に渡している。		
56	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者と一緒に花を活けたり野菜作りに取り組んだりし、生活の中に季節感を感じられるような支援をしている。また居間は神棚や仏壇が置かれておりお経を読まれたり手を合わせてる方もいらっしゃる。共同空間全てにおいて整理整頓に心掛け利用者が安心安全に過ごせるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
57		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	職員が利用者それぞれの生活習慣を理解してテレビを見たり新聞を読まれたりその方にあった過ごし方ができるような座席の配慮や利用者間同士が不快な想いをしないよう職員が間に入り声掛けをしながら共同空間を和やかに保てるような心くばりをしている。		
58	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人、ご家族と相談しながら馴染みのタンスや小物類を置いている。ご本人にとって居心地よく又安全であるようなレイアウトの配慮を行っている。職員は室温や採光、遮光等に配慮し快適に過ごしていただけるようご本人に伺いながら調整をしている。		
59		○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	フロア、トイレ、風呂等に手すりを設置されている。安全に歩行、立位ができるようになっている。各居室に表札をつけたり、トイレの表示も分かりやすくしている台所も利用者の方がいつでもはいれるように整理整頓に努めている。		